

一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸

2024年度 第5回 キャリア委員会

議事次第

日 時: 2025年2月12日(水) 15:00~16:00

開催場所: 兵庫国際交流会館 1F Nadacom Station

委員校: 関西学院大学(委員長校)

関西福祉大学(副委員長校)、甲南女子大学(副委員長校)、神戸国際大学(副委員長校)

芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西学院短期大学

甲南大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸市外国語大学

神戸松蔭女子学院大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部

宝塚医療大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部

兵庫県立大学、流通科学大学

計 24 大学

I. 協議事項

1. 2025年度キャリア委員会 事業計画・予算(案)について

(資料1)

①県内大学生の地元就職促進プロジェクト

- ・大学連携組織を活用した県内大学生の地元企業促進プロジェクト
- ・「尼崎市」大学生等向けオープンカンパニー事業

②県内企業・団体等の魅力を情報発信

③留学生向け就職支援・キャリア教育プログラム

- ・ひょうご留学生インターンシップ
- ・「尼崎市」外国人留学生向けインターンシップ
- ・外国人向け合同企業説明会
- ・『国際協力機関リレーインターンシップ』

④外国人留学生採用ワンストップ支援事業

II. 懇談事項

1. 合同模擬グループディスカッション・面接大作戦の今後の実施方法について

(資料2)

2. 全国コンソーシアム研究交流フォーラムの企画について

(資料3)

3. 兵庫県総務部教育課 受託事業の新規提案について

III. 連絡・調整事項

1. 2024年度のキャリア委員会開催予定と主な議題について

第6回委員会 3月:2024年度 事業報告・決算(案)

以上

<資料一覧>

資料1-1 : 2025年度事業計画・予算(案)及び2024年度事業報告・決算(案)の作成について(依頼)

資料1-2 : 2025年度キャリア委員会 事業計画・予算【鑑】(案)について

資料1-3 : 尼崎市経済環境局経済部しごと支援課受託事業「令和7年度インターンシップ等推進事業」について

資料2-1 : 合同模擬グループディスカッション・面接大作戦の今後の実施方法について

資料2-2 : 合同模擬グループディスカッション・面接大作戦実施報告書

資料3 : 第22回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムについて

(参考資料1) 2024年度 事業委員会 自己評価に対する改善提案

(参考資料2) 2025年度 事業委員会事業計画詳細案

2025 年 1 月吉日

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
事業委員会 委員長 各位

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
理事長 中村 恵

2025 年度事業計画・予算（案）及び 2024 年度事業報告・決算（案）の作成について（依頼）

拝啓 寒冷の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、標記の件につきまして、下記のとおりご提出いただきますよう、よろしく願いいたします。

なお、2025 年度事業計画の作成にあたっては、2024 年度の各事業委員会の自己評価をもとに企画運営委員会及び理事会にて作成した改善提案の内容を踏まえてご検討いただきますようお願いいたします。ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

敬具

記

1. 2025 年度事業計画・予算（案）及び 2024 年度事業報告・決算（案）の作成・提出
 - (1) 2025 年度事業計画・予算【鑑】（案）
提出期限：2025 年 2 月 14 日（金）正午
 - (2) 2025 年度事業計画・予算【詳細】（案）
提出期限：2025 年 5 月 8 日（木）正午
※第 6 回理事会(1/29)において来年度の各委員会事業に対する予算が承認されました。
委員会事業予算（総額）：600 万
 - (3) 2024 年度事業報告・決算（案）
提出期限：2025 年 3 月 27 日（木）正午
2. 今後のスケジュール
 - (1) 「2025 年度事業計画・予算（案）」
2025 年 3 月 17 日 第 7 回理事会にて審議・決定
2025 年 6 月（予定） 定時総会にて報告
 - (2) 「2024 年度事業報告・決算（案）」
2025 年 4 月（予定） 2025 年度第 1 回理事会にて審議、定時総会に上程
2025 年 6 月（予定） 定時総会にて審議・決定

（添付書類）

- ・添付 1) 2024 年度 各事業委員会活動の自己評価に対する改善提案
- ・添付 2) 2025 年度 【記入用】事業計画・予算（案）
- ・添付 3) 2024 年度 【記入用】事業報告・決算（案）

以上

委員長校	関西学院大学
副委員長校	関西福祉大学、甲南女子大学、神戸国際大学
委員校 (全：24校)	芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西学院短期大学、甲南大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸市外国語大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、宝塚医療大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学、流通科学大学

中長期計画Ⅱ期の取組課題/達成目標/活動指標	
課題	課題①地域の活性化のための県内企業への就職率の向上
取組1	大学キャリアセンターと連携した県内大学生の地元就職促進プロジェクトの実施
達成目標	①本プログラムへの参加を通じて、兵庫県内企業理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上 ②参加者数 2500名(学生数2250名以上、教職員数250名以上)以上/5年
活動指標	各年参加者数 450名以上(学生数400名以上、教職員数50名以上)
取組2	県内企業・団体等の魅力を情報発信
達成目標	情報公開企業・団体数120社以上
活動指標	企業情報の追加掲載 2種類以上
課題	課題④外国人留学生の受け入れ体制の強化・定着促進
取組1-1	留学生向け就職支援・キャリア教育プログラムの実施
達成目標	①本プログラムへの参加を通じて、日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の70%以上 ②参加留学生数 2500名以上
活動指標	各年参加留学生数500名以上

兵庫県の大学・短期大学・短期大学部・高等専門学校が加盟する大学間連携組織の特徴を生かして、グローバル、ローカルに活躍する人材育成を目指した事業を、県内企業、行政、加盟校キャリアセンターと共に展開する。

予算額	課題①地域の活性化のための県内企業への就職率の向上			
	取組1-1	「兵庫県」大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プロジェクト	3,938,050円 (受託事業収入)	
	取組1-2	「尼崎市」大学生等向けオープンカンパニー事業(「尼崎市プロポーザル申請予定」)	1,314,000円 (予定額)	
	取組2	県内企業・団体等の魅力を情報発信	0円	
	課題④外国人留学生の受け入れ体制の強化・定着促進			
	取組1-1①	留学生向け就職支援・キャリア教育プログラム	1,600,000円	
	取組1-1②	「尼崎市」留学生向けインターンシップ事業(「尼崎市プロポーザル申請予定」)	1,386,000円 (予定額)	
	取組1-2	「兵庫県」外国人留学生採用ワンストップ支援事業	6,291,000円 (受託事業収入)	

期待される効果

1. 地域創生の推進にあたり県外への人口流出を抑制するために、県内大学卒業者の地元への就職について、大学側と企業側が相互理解を深め共に連携する機会を提供することで、若者のキャリア形成の支援を充実させ、大学生の県内企業への理解不足を解消し、地域の活性化を実現することが期待される。
2. 地域の活性化のためのUターン就職の促進と地域産業ニーズに対応した人材育成が期待できる。
3. 各加盟校単独では実施が困難と思われる、「留学生に特化したインターンシップ」や「合同企業説明会」実施に向けて、持続可能な仕組みづくりが期待される。
4. 外国人留学生を企業が受け入れるための体制支援を強化し、外国人留学生採用のためのワンストップ相談窓口をコンソが担うことで、大学、行政、企業が連携した新たなネットワークを構築が期待できる。

【2025年度 キャリア委員会 事業予算】（案）

（単位：円）

	予算	各プログラム 予算										委員会 予算			
		①取組1-1		①取組1-2(予定)※1		①取組2		④取組1-1①		④取組1-1②(予定)※2				④取組1-2	
		内訳	予算額	内訳	予算額	内訳	予算額	内訳	予算額	内訳	予算額			内訳	予算額
収入	会費収入	1,700,000						会費収入	1,600,000					会費収入	100,000
	助成事業収入	0													
	受託事業収入	10,229,050	兵庫県受託事業 3,938,050	尼崎市受託事業 1,314,000						尼崎市受託事業 1,386,000	兵庫県受託事業 6,291,000				
	プログラム収入	0													
	雑収入	0													
	戻入金	0													
	計	11,929,050	3,938,050	1,314,000(予定,合計額には含めず)	0	1,600,000	1,386,000(予定,合計額には含めず)	6,291,000	100,000						
支出	会議費	0													
	旅費交通費	320,000	打合せ交通費 60,000	打合せ交通費 60,000					打合せ交通費 60,000	打合せ交通費 200,000					
	通信運搬費	415,000	チラシ送付費 30,000	HP作成・チラシ送付費・情報発信 185,000					HP作成・チラシ送付費・情報発信 200,000	チラシ送付費 200,000					
	消耗品費	320,000	消耗品費 100,000	消耗品費 100,000					消耗品費 26,000	消耗品費 120,000					
	新聞図書費	0													
	印刷製本費	400,000	チラシ等印刷費 100,000	チラシ作成費 30,000							チラシ等印刷費 200,000	資料印刷費 70,000			
	光熱水料費	0													
	賃借料	938,000	イベント会場費・PCリース 338,000					イベント会場費・PCリース 300,000		イベント会場費・PCリース 300,000					
	保険料	20,000			20,000										
	謝金	490,000	講師謝金 140,000					講師謝金 250,000		講師謝金 100,000					
	租税公課	55,000	収入印紙 10,000	収入印紙 5,000						収入印紙 10,000	講師軽食等 30,000				
	支払手数料	20,000	振込手数料 10,000							振込手数料 10,000					
	諸会費	45,000	会費 45,000												
	委託費	1,650,000						HP製作費・業務委託費 650,000		専門家派遣 1,000,000					
	人件費	8,570,050	コーディネーター費 3,105,050	コーディネーター費 914,000				パート・アルバイト代 400,000	コーディネーター費 1,100,000	コーディネーター・相談員費 4,151,000					
雑費	0														
計	11,929,050	3,938,050	1,314,000(予定,合計額には含めず)	0	1,600,000	1,386,000((予定,合計額には含めず)	6,291,000	100,000							

収入-支出	0
-------	---

※尼崎市受託の場合は、総額 14,629,050円 [追加内訳：(※1) + (※2) = 270万円となる]

令和7年度 インターンシップ等推進事業について

インターンシップ等推進事業 打合せ内容

①大学生等対象のオープンカンパニーについて

New ②外国人留学生向けインターンシップについて

③契約に向けてのスケジュールについて

①大学生等向けオープンカンパニーについて

1.事業概要・目的

大学生等を対象に、市内事業者の魅力を発信し、さらに体感できる機会を提供することで、若者の社会人基礎力を育成するとともに、市内事業者の事業活動の活性化及び市内事業者への就職を促進する。

2.委託業務内容

- (1)市内事業者におけるオープンカンパニーのコーディネート
- (2)参加企業の募集及び選定等は尼崎市において実施し、選定後の参加企業との調整等は貴コンソーシアムが主導で行う。
- (3)参加学生の募集及び選定等は貴コンソーシアムにおいて実施し、全体で概ね15人以上を確保すること。(事業実施期間における学生管理含む)
- (4)アンケート調査の実施(参加事業者、参加学生)
- (5)報告書の作成及び「アマポータル」掲載記事作成による参加事業者の魅力発信

3.目標

参加学生15人以上、参加事業者5社以上

※参加事業者は同業種に偏らないよう注意する予定

New ②外国人留学生向けインターンシップについて

1.事業概要・目的

外国人留学生向けのインターンシップを実施し、外国人留学生と市内企業が相互に理解する機会を提供することで、市内企業への就職意欲の向上を図るとともに市内企業の多文化共生社会への理解を深める。

2.委託業務内容

(1)市内事業者におけるインターンシップ（5日以上）のコーディネート

※[尼崎市オリジナルの内容を入れられないか...](#)

(2)参加企業の募集及び選定等は尼崎市において実施し、選定後の参加企業との調整等は貴コンソーシアムが主導で行う。

(3)参加学生の募集及び選定等は貴コンソーシアムにおいて実施し、全体で概ね15人以上を確保すること。(事業実施期間における学生管理含む)

(4)アンケート調査の実施（参加事業者、参加学生）

(5)報告書の作成及び「アマポータル」掲載記事作成による参加事業者の魅力発信

3.目標

参加学生15人以上、参加事業者5社以上

※同業種に偏らないよう注意。また外国人留学生向けインターンシップ実施経験のある事業者ではなく、未実施の事業者を選定予定

③契約に向けてのスケジュールについて

1.実施運営事業者選定方法

大学生等向けオープンカンパニーと外国人留学生向けインターンシップの2事業をまとめて（1つの契約として）プロポーザル方式（提案書及びプレゼンテーション審査）による一者特命随意契約

2.スケジュール

(1) 1月：公募要項、仕様書等の作成、コンペ等の日程調整

(2) 2月上旬～：ホームページにて実施運営事業者公募

※（参考）参加事業者の公募開始

(3) 3月上旬～：プロポーザルコンペ

(4) 3月中旬～：業務委託契約に係る見積依頼

(5) 3月中：R7年4月1日付け業務委託契約の締結

「合同模擬グループディスカッション・面接大作戦」の今後の実施方法について

議題：今年度の開催結果を踏まえ、来年度はどのような形態で実施すればよいか？

開催時期、企業や大学キャリアセンター職員や教員との連携、タイムテーブルなど

「合同模擬グループディスカッション・面接大作戦」の取組概要、事業建付け
大学キャリアセンターと連携した県内大学生の地元就職促進プロジェクト(兵庫県受託事業)

<若者の地元密着のための就職支援事業>

兵庫県の年齢別転出超過で最も多いのは、大学卒業・就職を契機とした若者であり、県内大学卒業者の『県内企業就職率』は、3割弱に過ぎず、7割以上が県外に本社のある企業に就職している。その要因の一つに、大学生の県内企業への理解不足があると考えられる。県内大学卒業者の地元への就職について、大学側と企業側が相互理解を深める機会を提供する。地元企業と加盟校が連携することで、若者のキャリア形成の支援を充実させ、地域の活性化を実現する。

○特徴

大学と企業との情報交換会に端を発し、加盟校キャリアセンター教職員と主に兵庫県内に拠点を持つ企業の経営者、人事担当者が協力して、学生の就職支援、キャリア形成支援を目的に、模擬グループディスカッション、面接、企業とのネットワーキングを実施。11年間継続の産学官連携プラットフォームである大学コンソーシアムひょうご神戸ならではの特色ある事業。

○目的・内容

- ・学生) 他大学の学生と他流試合を行い、企業の経営者・人事担当者や大学キャリアセンター職員から直接フィードバックをもらうことを通じて、企業の求める人材を理解し県内企業やそこで働く人を知ること。
 自身の長所や短所を振り返り、自己の現在地を知り、就職活動や卒業後のキャリア形成に対する考えを深める機会としてもらうこと。
- ・企業) 採用選考以外で学生との接点を持つ。学生の傾向、大学キャリアセンターの指導内容、他社の採用目線を知り、採用活動につなげる。
- ・大学) 自学以外の学生を知る。企業の採用目線を知り、交流を深め、学生指導に生かす。

【開催結果】

○開催日時：1月25日(土)10:00～16:30 於：兵庫国際交流会館

○主な参加者：参加学生 17 大学 56 名、大学キャリアセンター職員 13 大学 13 名、企業 19 社 28 名
 賛助会員入会希望企業（見学参加）6 社 17 名

○参加者の満足度：別添報告書（資料 2-2）のとおり

○課題（※コンソ事務局でのオペレーション部分での課題は割愛する）

課題 ①：申込、参加学生数の減少、当日キャンセルの増加。

原因：学生が指導を希望する時期と開催時期のずれ

検討内容：・どの層を主なターゲットにするか？（夏のインターン前後層？ゆっくりスタート層？）

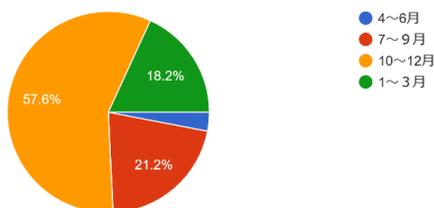
- ・ターゲットに基づき、開催時期を再考
- ・教員との関係性を強化することで、学生への参加促進、大量キャンセルの回避できないか？
- ・コンソ事務局が大学に出向き、ガイダンスで説明
- ・各大学の年間キャリアプログラムに組み込んでもらう

参加学生、企業、大学の推移

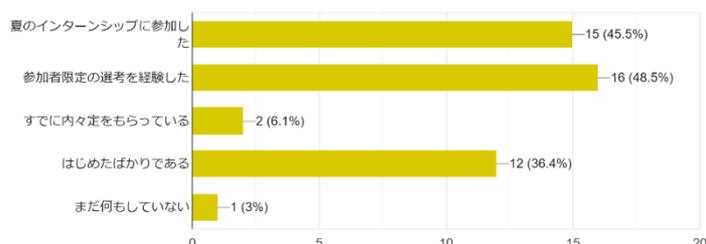
年度	開催日	学生					大学キャリア職員		企業	
		参加校	参加学生	申込学生	出席率	うち当日 &無連絡 CXL	参加校	名	社	名
2024	1月25日	18	56	102	55%	28	13	13	19	28
2023	1月20日	20	76	129	59%	24	13	15	22	32
2022	12月17日	14	61	83	73%	11	12	12	13	20
2021	1月22日	18	70	82	85%	8	14	14	18	29
2020	1月23日	16	126	143	88%	4	17	17	21	30
2019	2月15日	23	101	139	73%	6	12	13	21	32
2018	2月16日	16	80	110	73%	9	12	15	17	25

※2023年度から履歴書の事前提出不要とした

Q13.主に3年生、M1年生向けの今日のようなイベント開催は、いつがよいと思いますか？
33件の回答



Q12.就職活動の状況について教えてください（複数回答可）
33件の回答



課題②：キャンセル学生が想定を超え、1グループ、面接当たりの人数が少なくなった。

原因：キャンセルの想定が甘かった。企業、大学の満足度を鑑み、グループの結合を躊躇した。

検討内容：「グループを再編成し、1グループあたりの企業・大学職員の数を増やす」もしくは、「グループを維持し、学生を動かしてGDの人数を均等に割り振る」どちらを優先させるか？

課題③：参加企業の発言の質の低下、経営者の参加が少なめ

（学生が普段合わない層の企業関係者と出会う機会の創出）

原因：企業参加担当者との関係性の薄さ、イベントの目的やコンソの思いの共有が不十分

検討内容：事前にZoomなどで、イベントの趣旨説明、注意事項等を伝える場を設けるか？

イベント申込時に入念な説明を行い、事業内容を理解してもらう

各社の参加人数を定める。キャリア委員の出席も、委員か担当者かなどを考慮する

課題④：会場のざわつき、面接会場の緊張感の無さ（学生の前で企業同士が挨拶）

ネットワーク時の大学キャリア職員の手持無沙汰

原因：見学企業（6社17名）の増加、学生数の減少

検討内容：見学者もGD中、面接中は移動禁止とし、固定席で着席。キャリア職員は面接時のフィードバックを依頼。学生一斉入場前に企業挨拶を済ませる

課題⑤：企業の全体に向けた説明が長い。（会社説明30秒+採用のポイント1分30秒）×19社

原因：参加学生への参加メリット、企業側メリットと思う部分を優先させた。

検討内容：特徴が違う数社を紹介、他はネットワーキングで個別に教示

「合同模擬グループディスカッション・面接大作戦 2026」報告書

主催：大学コンソーシアムひょうご神戸

1. 日時：2025年1月25日（土） 10:00～16:30
2. 場所：兵庫国際交流会館3階 多目的ホール
3. 目的：

今年で11回目の開催となる本プログラムは、大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校の就職活動を控える3回生・M1の学生を主な対象とし、加盟大学キャリアセンター教職員と兵庫県内に拠点を持つ企業の人事担当者が協力して、県内企業への関心を高め、県内就職率の向上に寄与することを目的とした事業である。

産官学連携プラットフォームならではの特色ある事業であり、企業と大学キャリアセンターの双方が交流を深める目的がある。

学生にとっては、人事担当者からのフィードバックや対話により、企業が求める人材像を理解できる。また、他大学学生との出会いで、自分の長所や短所を客観視し、分析を深めるきっかけになる。企業にとっては、選考以外で学生との接点を持つことができ、最新の学生気質に触れ、採用活動の参考にできるほか、自社を直接PRできる好機になる。大学にとっては、他大学学生の現状を知ることができ、企業の採用視点のトレンドを知る機会となる。

4. プログラム：

第1部 10:00～14:20 合同模擬グループディスカッション

第2部 14:20～16:30 面接大作戦&学生×企業ネットワーキング（座談会）

第3部 16:40～17:30 企業×大学キャリアセンター意見交換会（企業・大学のみ）

5. 参加者：計117名（学生、大学、企業、見学、県、ファシリ）

- 1) 学生：17校56名（うち加盟校16校55名）

芦屋大学（2）、大手前大学（2）、関西福祉大学（1）、関西学院大学（6）、甲南大学（5）、甲南女子大学（7）、神戸大学（3）、神戸海星女子学院大学（1）、神戸学院大学（7）、神戸国際大学（2）、神戸市外国語大学（1）、神戸女学院大学（2）、神戸親和大学（3）、神戸薬科大学（1）、兵庫県立大学（6）、流通科学大学（6）、兵庫医科大学（1）

※2回生（1）、3回生（43）、4回生（4）、M1生（8） ※男子学生（21）、女子学生（35）

※留学生9名【中国（5）、ベトナム（1）、ミャンマー（1）、韓国（1）、香港（1）】

- 2) 大学教職員：13校13名

大学数	大学名	部署	役職	氏名
1	芦屋大学	学生部就職課	キャリアカウンセラー	松森 香子
2	大手前大学	キャリアサポート室	主任	森田 英里
3	関西福祉大学	キャリア開発課	職員	笠原 駿介
4	関西学院大学	キャリアセンター		藤原 咲穂
5	甲南女子大学	キャリアセンター	主任	樋口 美智子
6	神戸大学	キャリアセンター	特命政策研究職員	田中 美恵
7	神戸海星女子学院大学	キャリアセンター	課長	田辺 善博
8	神戸学院大学	キャリア支援グループ		渡邊 友紀子
9	神戸国際大学	キャリアセンター	室員	鈴木 雄祐
10	神戸松蔭女子学院大学	キャリア支援課	課長代理	藤部 千栄子
11	神戸親和大学	キャリアセンター事務室	主任	實安 恭子
12	兵庫県立大学	本部事務局教育企画部	就職支援コーディネーター	片山 裕司
13	流通科学大学	人間社会学部	准教授 <small>（キャリア教育担当）</small>	前川 明

3) 企業：19社28名

	企業数	企業名	部署	役職	氏名
1	1	株式会社あみだ池大黒	管理部人事・広報課	主任	長谷 寿仁
2					下道 未羽
3	2	神戸トヨベツ株式会社	採用グループ		五十川 優
4					高岡 美帆
5	3	株式会社サンエース	人財開発部		西井 晴香
6	4	医療法人社団星晶会	総務部	統括部長	小島 昭彦
7				総務部長	中山 祐子
8	5	株式会社シマブンコーポレーション	人事労働部 人事室		粟井 萌絵
9	6	センコー株式会社	関西業務センター	課長	中井 広文
10	7	総合警備保障株式会社	西日本採用センター	センター長	大岸 義和
11				金谷 まい	
12	8	株式会社ソネック	経営管理部	部長	坂本昇一郎
13			施工部建築部		國米 広樹
14	9	株式会社TAT	経営発展部	課長	小寺 広高
15	10	株式会社東京商工リサーチ	関西支社総務部	部長	摺出寺 理恵子
16			神戸支店	支店長	改發 厚
17	11	日本通運株式会社	大阪支店コーポレートソリューション部	主任	伴 千晶
18	12	日本テクノロジーソリューション株式会社	代表取締役社長		岡田 耕治
19			マーケティング&セールス統括部	リーダー	齋藤 一葉
20	13	バンドー化学株式会社	人事部	採用チームリーダー	古畑 知一
21				採用チーム	有馬 亜美
22	14	株式会社ブレックス	取締役社長		大久保 武
23	15	株式会社ベオスアイティーホールディングス	大阪支店採用営業課		石井 勇治
24	16	株式会社マルヤナギ小倉屋	総務人事部	部長	河田 招稔
25				リーダー	北澤 愛
26	17	株式会社みなと銀行	人財育成室	主任	川口 憂稀
27	18	株式会社レック	人事部	係長	榊 知之
28	19	株式会社ロック・フィールド	人事部		小林愉佳

【見学】6社17人

4) 団体：1団体2名

	団体数	団体名	部署	役職	氏名
1	1	兵庫県	総務部教育課連携教育推進班	班長	太田 稔
2		兵庫県	総務部教育課連携教育推進班		石森 南美

5) ファシリテーター：1名 株式会社V3代表取締役 中川 コーイチ 氏

※事務局：大学コンソーシアムひょうご神戸 (16)

6. 内容：

はじめに、参加企業19社より企業概要と参加者の紹介、司会より13大学のキャリアセンター職員を紹介した。

第1部「合同模擬グループディスカッション」では、学生が模擬グループディスカッションを2回体験。第2部「面接大作戦」では、集団面接を1回、ネットワーキングを2回行う。グループディスカッションは、学生5、6人を15グループに分け、人事担当者とキャリアセンターの2、3人が面接官として着席。集団面接は、学生2、3人に対し、面接官2、3人とした。グループディスカッションでは、全体と個別のフィードバック、集団面接では個別フィードバックを依頼した。

1) 第1部 合同模擬グループディスカッション

・グループディスカッション①

テーマ：兵庫県の中小企業における人手不足を解消するには、
どうすればよいか？

・グループディスカッション②

テーマ：週休3日制の是非について



最初にファシリテーターから、「グループディスカッションに臨む心構え、テーマ説明」があった。

学生は、ホワイトボードを用いて20分議論し、結論を2分で発表する。次に、ファシリテーターが優秀な1グループを指名し、高評価の理由を説明する。面接官のフィードバックは、グループ全体と学生個人に対してなされ、学生同士でも振り返りをさせる。

グループディスカッションには、司会、書記、タイムキーパーといった役割分担があるが、初回はこうした説明をせずに議論に入らせた。

テーマ①は、事前告知とし、②は当日に発表。両テーマとも、「どのような社会情勢の中で、あなたは働くことになるのだろうか」「どんな働き方がしたいのか」について具体的なイメージを持って、今後の就職活動に臨んでほしいという思いで設定した。

テーマ①で指名されたグループは、「若者(20歳代)」と「30~40歳代」で解決策を分けた。若者に対しては、大学と連携し、地場産業を担う企業の存在を知ってもらう。三木市の金物をPRするため「金物まつり」が開催されているので、こうした場で中小企業をアピールする。「30~40歳代」に対しては、西宮市のように「住みやすさ」を自治体がアピールし、子育て世帯を呼び込み、そこに根差す中小企業に誘導できないかというものだった。豊岡市のような自治体でも、移住と就労がセットであれば、同じことができるのではないかという提案だった。

中川氏からは「兵庫県の地名が入り、話に具体性があるところがよかった。グループディスカッションは、チームの一体感、輪になって議論している姿も大切」というアドバイスがあった。

フィードバックでは、「相手の名前を呼んで、意見を促してみる」「声のトーン、大きさ、表情にも気を配る」といった改善点が助言された。

その後は、「採用の視点を学ぶ」として、企業から、採用で重視している視点が共有された。IT業界は、「トレンドの移り変わりが激しい世界。情報を自ら取りに行く人材、論理的思考力のある人を求めている」。物流業界は、「チームで動く。様々な業種の年齢の離れた、幅広い年代の人とも会話できるか。歴史ある会社なので、失敗してもあきらめずにチャレンジできるか」。金融業界は「顧客企業の課題を解決するためのヒアリング能力、課題解決能力」などだった。

採用視点が企業で異なることについて、中川氏は、「志望企業と、自分の価値観が合致することが大事。企業が求めるコミュニケーション能力とは、スマホの機能と同じ『受信(聞くこと)』と『発信(話すこと)』。面接官のアドバイスで、自分の強みに気づき、これからに生かそう」と呼びかけた。

GD2回目の開始前に、神戸海星女子学院大学の田辺氏から振り返りがあった。「企業からのフィードバックをもらえる機会をプラスにして、気づきにしてほしい。私たちも本気で取り組む。皆さんも本気でやりましょう」。中川氏からは、グループディスカッションについての説明があり、「司会、書記、タイムキーパー、発表者といった役割分担で、自分の強みをいかす役割は何か。チームのために動くことが大事」との言葉があった。テーマについても、「(前提や定義を)絞る、(考えを)広げる、まとめる、深める」作業が大事だとした。

学生たちは、作戦会議の時間で、さきほどの講義を受け、初回の改善点を意識して2回目に入った。「週休3日制」という学生にとっては、やや硬いテーマながら、役割分担や時間配分はスムーズで、議論に入った。



テーマ②で指名されたグループは、「労働者と経営者という双方の立場から、メリットとデメリットを考えた。労働者にとっては、ワークライフバランスの充実が出来る。一方で一日あたりの残業は増える。経営者にとっては企業PRに使うことができるが、業種によっては取引企業との関係もあり難しいのではないかと。労働者から見れば、是だが、経営者から見れば、非である」と述べた。中川氏は、「立場によるメリット、デメリットを考え抜いたのが良い点。会社が回らないと、経済が停滞する。誰にとっていい制度なのか？を定義して考えてほしい」とした。その後、1回目と同様に企業採用担当者及び大学キャリアセンター職員から全体と個人へのフィードバックが行われた。

全体講評で、株式会社東京商工リサーチの摺出寺氏からは、「午前と午後で皆さんの表情が違う。社会人になれば失敗もするが、そこからの学びに価値がある。皆さんも、(就職活動で)失敗を恐れずにチャレンジしてほしい」。株式会社センコーの中井氏からは「1回の経験で、2回目ここまで成長するのかなと思った。学生の成長には目を見張るものがあった」と温かい声かけがあった。

2) 第2部 面接大作戦&学生×企業ネットワーキング (座談会)

学生と企業を3グループに分け、1グループが3階で集団面接、残りの2グループが1階で企業とのネットワーキングに参加する形式で、25分ずつ3回実施した。

【集団面接】

学生：1～2名、面接官（企業・大学）：2～3名
(ア～ケ、最大9ブース)

1回25分(面接時間15分・フィードバック時間10分)

模擬面接では、学生が実際の面接を想定した環境で貴重な経験を積むことができた。参加した学生は緊張しつつも、真剣に取り組んでいた。学生は、午前と午後2回グループディスカッションを体験した後だったので、話すことについては多少リラックスした雰囲気があったように思う。

企業側からの質問では、自己PRや学生時代に力をいれたことなど一般的なものが多くみられたが、企業独自の質問や「AIが社会全体に及ぼす影響について」など即答できないような難易度の高い質問もなされた。企業側からのフィードバックで、答えに困るような質問の場合は、決してレベルの高い答えを求めているわけではなく、わからないことはわからないという素直さやとっさのことに対応する対応力を見ているのだという、企業側からの視点の話があり、学生にとっては本番で多に活かされるアドバイスであった。

また、学生からは「どうしたら採用される面接ができますか」という質問があり、企業側から「会社の理念などをしっかり理解しているか」や「自分が面接官だったら、採用したい人はどんな人かを考えてみてはどうか」など具体的なアドバイスがあった。どの企業もコミュニケーションを大事にしていて、学生には面接用ではなく面接官と普通に話すことが大事という話があった。学生がうまくいかなかった場合には、企業が親身になってフィードバックを返して、学生を励ます場面がたくさん見られた。

参加者からは「本番ながらの緊張感が味わえた」「フィードバックが具体的で大変参考になった」との声が多く寄せられ、模擬面接の意義を改めて感じる事ができた。一方で、学生の座る位置が第1回目と第2回目の間に急遽変更し、オブザーバーの観覧方法を変更するなど改善の余地がある点も見受けられ、次回の開催に向けて更なる工夫が必要であると痛感した。

面接官として参加して下さった企業や大学の皆様のご協力により、学生たちは現実の採用過程に近い体験を得ることができ、非常に有意義な時間となった。今後も、学生のキャリア支援に役立つイベントを企画・運営し、より多くの参加者に満足していただけるよう努めたいと考えている。



【ネットワーキング】

学生：約40名、企業：1～2名×6、7ブース

1回25分（約10分×2、席移動5分）

企業が各ブースに座り、学生が自身の興味のある企業のブースの席に座る形式でプログラムが進められた。ブースでは、持参したパンフレットや、PCを使用して、会社概要、入社後の研修制度等について説明を行い、学生から質問を受け付ける形で進化した。

学生は、印刷された企業情報シートや、配られたパンフレットを見ながら、熱心に話を聞いていた。

ブースに着席したものの、当該企業のことについてよく知らない学生も多く、偶然の出会いもあったようだ。ある企業では、学生から人事担当者に「たくさんある企業の中から、どうやって現在の就職先にたどり着いたのか」といった素朴な質問が出た。担当者は、「合同説明会に社長が出席して企業理念を語っており、その理念に共感したから。そうした理念に着目して、企業選びをするのもよいと思う」と答えていた。

また、あるブースでは、学生が「転職のない企業を選びたいと考えている」と答えたことに対し、企業側が驚き、喜ぶ姿もあった。企業側にとっても、学生の企業選びについての視点が様々であり、アピール次第では、採用したい学生が集まるということを感じてきた様子だった。

最後の講評では、日本テクノロジーソリューション株式会社の岡田氏から「11年前から参加しているが、学生がどんどんうまくなって、何か人間らしさを失っているような感じがしました。血の通ったコミュニケーションが、できているのかなと思っちゃう。上手な受け答えが、就活であるという認識はやめてほしい。ぜひ、人間らしく、ぶつかってほしい」との熱いメッセージが送られた。神戸親和大学の實安氏からは、「皆さんは、今日行動し、成長できる機会を自ら作った。課題が多く見つかったと思う。本番まで、まだ時間がある。何が足りなかったのか、今日で終わりにせず、生かしてほしい。整理する時間を設けて、立ち止まって、次のステップに向かってほしい。2週間後、同じ会場でキャリアセンター6大学が、面接練習の場を設けるので、ぜひ申し込んでほしい」と促した。ファシリテーターの中川氏からは、「たくさんの企業を見ましょう。選考に落ちた時は、その企業にあなたは向いていないよ、という教え。へこまず、学びだと思って、志望業界を変えていく試行錯誤が求められる。一喜一憂せず、プロの力を借りよう。就活は孤立してはダメ。人に頼って、就活仲間を作って、情報交換しよう。働くことは、世の中をよくすること。条件に惑わされず、自分が、将来その会社で活躍できるか、仕事内容をよく調べてほしい。皆さんが、社会で活躍する日を楽しみにしています」とまとめ、全員が企業・大学から参加された「面接官」に御礼を述べ、拍手をして自分や仲間をねぎらった。



3) 第3部 企業×大学の意見交換会

第3部では、参加企業と大学、行政の意見交換会を実施した。自由に発言できるよう、あえてテーマは設けず、ファシリテーターの進行に任せた。

企業から大学に対し、「内定を複数とった（重複内定）学生への指導は、どうしているのか」という質問があり、大学は「待ってもらえるのであれば、会社と交渉しなさいと助言する。学生には、むやみに（内定の）手数を持つのはよくない。1社握ったら、1社減らすよう指導している」という意見が出た。それに対し、企業からは、「学生が『抑えとして（御社の）内定を持っておきたい』と正直に言ってくれるならまだいい。そうでないケース（内定辞退）が、一番困る」という本音が漏れた。

「少子化、人手不足の中、採用基準を下げている企業はあるか」というファシリテーターからの投げかけには、建設会社から「（過去の採用実績に比べ）SPIの点数が低くても、人間性を見て採用している。大事にするのは、ビジョンが描け、トライアン



ドエラーができ、有言実行してきたか・しそうな人間である」という回答があった。

苦勞して採用しても、新卒社員の3割が入社3年以内に離職する現状を鑑み、ファッションリテーターから「離職率の推移」についての問いもあった。企業は、「上司と部下の個人面談を実施する」「自己申告で異動希望を書かせ、人事部と本社で共有する」といったことで、社員の帰属意識を高めている。

そのほか、企業から大学に対し、「留学生を企業に紹介するときの難しさがあれば教えてほしい」という質問が出た。留学生が多い大学からは、「中国、ミャンマー、ベトナムといった東アジアの留学生が在籍するが、母国と日本の就活の違い、スケジュールを教えるのに非常に時間がかかる。企業情報を留学生に伝えるまで進まない。また、留学生は、日本人のように、複数社の採用試験を受けない傾向がある」との回答があった。これを受け、企業からは、よりよい人材採用のため、企業文化になじんでもらうため、履歴書や報告書に求める日本語力も再考していきたいとの声も出た。



就職活動が早期化する中、大学からは「企業の選考が、試験期間に重なるケースがある。学業に支障が出ないよう1月第3週から2月上旬は避け、できれば2、3月の春休みの選考をお願いしたい。大学の試験と重なるなら、採用試験の別日程も考えてほしい」という要望もあった。

ファッションリテーターからは、企業と大学との接点づくりについて、企業が大学で正式に授業を担当したり、個人的に親しい教員の授業で企業紹介したりすることが、学生に有効ではないかという助言もあった。

その後、参加者は、企業、大学、行政の混成グループに分かれて着席。「面接は対面がよいか、ウェブがよいか」「新卒採用者の離職防止対策」「学生への効果的なアピール方法、連絡手段」といった企業と大学が共通の関心事について、それぞれの立場から意見を交わすことができ、両者にとって意義深い機会となったようである。

7. 所感：

学生アンケートで、「グループディスカッションや面接で、就職活動にいかせることは見つかりましたか？」と尋ねたところ、97%の学生が「見つかった」と回答した。課題を聞くと、「自分に最適な役割を見つけること。自信を持って発言すること」「マナーや感情面の表現について」「場慣れすること」といった声が出た。印象的だったのは、「リーダーをしてもらう事が多かったが、リーダーになって回すこともできるとわかった」という声だ。これは、面接官からのフィードバックや、他大学の学生との交流で、自身の可能性に気づいたといえよう。

「地元企業への理解が深まった」という回答は、97%に上る。「商社やIT企業などを新たな視点で見ることができた」「座談会形式で距離が近く、等身大で話して頂けた。働いたときのビジョンが見えやすかった」というコメントがあった。学生は、今日の出会いを通じて、兵庫県内企業に親しみを抱くことができたのではないかと。

企業・大学のアンケートで、グループディスカッションについての満足度は「非常によかった・よかった」を合わせ100%だった。「学生のエネルギーを感じた」「学生の真剣さに刺激を受けた」という声からは、面接官としてのやりがいも伺える。一方、集団面接については、「4人前後でやるイメージ。参加学生が少なすぎる」「学生の志望業界を事前確認し、近い業界の面接官に当たれば、よりよいのではないかと」という指摘があった。

アンケートでは、複数の大学から開催時期の見直しについての提案があった。「テスト期間やレポート提出と重なるため、1月から2月上旬は避けた方がよい」「企業選考の早期化加速の状況を踏まえ、もっと前倒しにしても良い」という声をしっかりと受け止めたい。学生アンケートでも、希望開催時期は10～12月が57.6%と最多だった。

今後も、改善を続けながら、産官学連携プラットフォームである当コンソーシアムのスケールメリットを生かし、学生へのより良い学びの場を提供し、兵庫県内就職を促進する機運を盛り上げていきたい。

以上

第 22 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム（2025 年兵庫県開催）について

1. 実施概要

開催日：2025 年 8 月 30 日（土）・31 日（日）

会場：神戸学院大学 ポートアイランド第 1 キャンパス

共催：全国大学コンソーシアム協議会、一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

協力：神戸学院大学（会場校）

後援：文部科学省、一般社団法人国立大学協会、一般社団法人公立大学協会、一般社団法人日本私立大学連盟、日本私立大学協会、全国公立短期大学協会、日本私立短期大学協会、全国知事会、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、日本経済新聞社、一般社団法人共同通信社、地元自治体、地元紙（予定）

テーマ：「激変する将来社会を切り拓く新たな人材の育成にむけて

～不易流行で考える大学間連携と産官学協働～

大会趣旨：

文部科学省が中央教育審議会に諮問している「急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方について」にもあるよう、現在高等教育は大きな転換点を迎えている。「少子化」「デジタル化」といった外部的要因や、「問題発見・課題解決的な学習活動の充実」に代表される高校生の学びの変化など、今すぐに対応が必要となっている。

また、高等教育機関には文理横断・文理融合教育の推進や多様性と流動性を高めるためのリカレント教育を実施することで、未来社会を創出し、牽引する高度専門人材を育成することも求められている。「地域の中核となる高等教育機関へ」と成長・発展するためには、他の高等教育機関はもちろんのこと地方公共団体や産業界など、地域の様々なステークホルダーと一体となった産官学での取り組みを進めていくことが必要不可欠である。その様な環境下で大学をはじめとした高等教育機関は、「不易流行（いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものも取り入れていくこと。）」の考えの下、変えてはいけない点と時代に合わせて変化していく点を、「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」を視野に入れて見極めることが重要になってきている。

例えば大学コンソーシアムひょうご神戸においては長年留学生インターンシップを実施しているが、継続していく中で「変化していないこと」「変化したこと」の両方が混在している。そこで今回のフォーラムは、大学間連携組織である大学コンソーシアムでの取組において、改めて活動の本質を考え、そのうえで最新の取組について知見を得ることができる場としたい。

2. プログラムスケジュール案について

○1 日目：2025 年 8 月 30 日（土）

13:00-13:15	開会挨拶	12:00- ポスター セッション・ パネル展示
13:15-13:25	学生ステージ A	
13:30-15:10	シンポジウム①話題提供：20 分×5 人	
15:10-16:30	休憩 ★コアタイム	
16:30-16:40	学生ステージ B	
16:45-17:30	シンポジウム②ディスカッション	
17:30-17:45	閉会挨拶	
18:00-19:30	情報交換会	

※午前中には、加盟校の教職員、企業を対象とするプログラム

（「SD ワークショップ」「キャリア教職員×企業人事」「リカレント教職員×企業人事」）を開催予定

※ポスターセッションでは、全国大学コンソーシアム協議会加盟組織（正会員 44 団体）のうち、毎年 10 団体程度がポスター展示

※パネル展示では、「兵庫から発信する大学間連携や産官学連携」をコンセプトに、「大学間連携」「産官学連携」「震災 30 年、阪神・淡路大震災の教訓をつなぐ大学・学生の活動」の分野から加盟校から展示を募集予定（現在、企画運営委員会にて検討中）

○2 日目：2025 年 8 月 31 日（日）【全国大学コンソーシアム協議会にて審議】

10:00～12:00 分科会

※現在、全国大学コンソーシアム協議会にて分科会テーマ募集中。

内容や開催数等は 2025 年 3 月中には決定予定。

3. 参加費・情報交換会費案について

○参加費（一般）5,000 円 /（学生）無料

○情報交換会（一般）4,000 円 /（学生）2,000 円

<ご参考>過去の参加費・情報交換会費について

開催年度（開催地）	参加費		情報交換会	
	（一般）	（学生）	（一般）	（学生）
2024 年度（京都）	5,000 円	無料	4,000 円	2,000 円
2023 年度（静岡）	4,000 円	無料	4,000 円	2,000 円
2022 年度（八王子）	4,000 円	無料	無料	無料

4. 開会挨拶・シンポジスト・モデレーター・閉会挨拶案について

【開会挨拶】

- ・全国大学コンソーシアム協議会 代表幹事 小原 克博氏
（公益財団法人大学コンソーシアム京都 理事長、同志社大学 学長）
- ・一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸 理事長
- ・兵庫県知事 齋藤 元彦氏
（一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸 参与）

【シンポジスト・モデレーター】

「人材育成」「大学間連携」「産官学連携」をキーワードに、下記に所属する 5 名を予定。

1. 兵庫県に本社のある企業の経営者（2 名）
2. 大学教員（1 名）
3. 大学職員（1 名）
4. モデレーター・コンソ理事（1 名）

1. 兵庫県に本社のある企業の経営者（2名）

日本テクノロジーソリューション株式会社 代表取締役社長 岡田 耕治氏

- ・包装機械等のメーカー事業とコンサルティング・セールスプロモーション事業を展開する、幸せスパイラル提供が企業理念。
- ・賛助会員企業として、約 10 年。ひょうご留学生インターンシップの受け入れ企業でもあり、キャリア関連事業では複数回、講演等ご協力いただいている。
- ・地域密着型の採用戦略や健康経営を通じた職場環境の整備、多様な人材の育成に取り組んでいる。同社の実践例として、社員数倍増計画や技術職向け育成プログラムが挙げられ、個々の成長が企業価値向上に直結する仕組みを構築。

株式会社 ShimaFuji IEM 代表取締役 島藤 真澄氏

- ・神戸経済同友会のスタートアップ委員会に参画し、地域経済や産業界との連携に貢献されている。
- ・世界的マーケターのエージェント及び弟子として、企業戦略及び利益戦略に携わる。ゴールデンサークル理論（成功する企業やリーダーが何を基盤にして動いているか）で著名なサイモン・シネックの WHY 発見の手順書『FIND YOUR WHY』翻訳者として、日本の状況も踏まえた「なぜ働くのか」という命題へと導くワークを提供。

2. 大学教員（1名）

國學院大學観光まちづくり学部教授、東京大学名誉教授 吉見 俊哉氏

- ・文部科学省の中央教育審議会「高等教育の在り方に関する特別部会」委員
- ・著書『大学という理念 絶望のその先へ』『大学は何処へ 未来への設計』など
- ・日本社会における文化、メディア、教育政策の分析や提言を行ってきたことで知られ、少子化や人口減少が進む中での大学の役割や構造改革について、また大学と地域社会の活性化、まちづくりや地域振興における大学と地域の協働の重要性についての議論に期待。

3. 大学職員（1名）

関西学院大学 学生生活支援機構 事務部長 本荘 雅章氏

- ・コンソ設立当初から約 15 年にわたり、事務局のプロジェクト責任者や理事校スタッフおよび企画運営委員会の委員長等を歴任し、当コンソの基盤形成に多大なる貢献をなし、大学間連携、産官学連携にも豊富な経験を有しているため、不易流行における問題提起が期待できる。
- ・現在、関西学院大学硬式野球部の監督としても活動されており、学生の指導に関しても貴重な経験を有している。

4. モデレーター・コンソ理事（1名）

大学コンソーシアムひょうご神戸理事（関西国際大学 学長）濱名 篤氏

【閉会挨拶】

- ・全国大学コンソーシアム協議会 代表幹事 川野 祐二氏
（一般社団法人教育ネットワーク中国 理事、エリザベト音楽大学 理事長・学長）

【キャリア委員会で懇談頂きたい内容】

8月30日(土)の午前中に開催する

加盟校の教職員、企業を対象とする「キャリア教職員×企業人事」プログラムの内容について

- ・建付け：「賛助会員様と加盟校の懇親会(例年12月開催)」における、大学キャリア職員と賛助会員企業と意見交換の代替プログラムとして
- ・参加者：大学コンソーシアムひょうご神戸 加盟校の教職員、賛助会員企業
- ・形態：セミナー形式、ワークショップ、各ブースでの説明会形式、名刺交換など

【全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムとは】

高等教育の発展に資するべく、各大学コンソーシアムの取り組みや研究成果等の情報交換を2004年から毎年開催。運営は、全国大学コンソーシアム協議会が実施。

【全国大学コンソーシアム協議会とは】

●設立趣旨（抜粋）：世界的にも高等教育を構成する重要なシステムである大学コンソーシアムは、連携でこそ実現可能な新しい学びと、知の社会還元を実現する可能性を有しています。このような流れの中で、発展段階にあるわが国の連携型の教育・研究の発展を目指し、各地で培ってきた「地域力」を「組織力」に換えることにより、相互に内容を共有できる新たな研究交流の場を提供していきたいという考えにもとづき、「全国大学コンソーシアム協議会」を設置。

●加盟正会員：全国から46のコンソーシアムが所属

【過去の全国コンソーシアムのテーマについて】

第18回 2021年 9月11日 大阪（オンライン開催）

大学コンソーシアムの再考と再興 ～ニューノーマル時代に大学コンソーシアムが切り拓く可能性とは～

第19回 2022年 10月15日～16日 八王子（対面開催）

高等教育の充実と地域社会の発展を目指して～大学コンソーシアムが持つ無限の可能性を模索する～

第20回 2023年 9月2日～3日 静岡（対面開催）

大学コンソーシアムが紡ぐ持続可能な地域社会づくり ～アフターコロナ時代を見据えた新たな価値の創造を目指して～

第21回 2024年 9月7日～8日 京都（対面開催）

地域特性を活かした大学間連携・地域連携の発展

2024年度事業委員会への改善提案について

※達成目標は中長期計画立案時に、活動指標は各年事業計画立案時にそれぞれ策定

①国際交流委員会

事業報告	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業	4	4	兵庫国際交流会館を拠点に、日本文化、就活、防災、ファシリテーションなどで、留学生を積極的に活動に取り込んでいることについては評価できる。留学生からのヒアリングを丁寧に継続するとともに、日本人学生との関わりもさらに補強してプログラム内容に盛り込むことを期待したい。また学生・留学生主体の企画にも引き続き重点をおき、さらなる内容と質が充実するよう、コーディネートを工夫することに期待する。留学生の日本定着を目指すにあたり日本人学生が果たす役割は大きい。英語が苦手な日本人学生にとっても留学生との交流は有益であるため、より裾野の広いプログラム展開を期待したい。	①本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する 学生の割合：参加学生の80%以上 (期間中2回測定) ②参加者数 2500名以上/5年	①94.2% ②参加者数 5562名/3年	参加者数 500名以上/年	参加者数 1552名/年
事業報告②	<加盟校の国際交流プログラムとの連携促進事業> ・学生海外派遣プログラム ・事業年度内で加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラム	4	4	連携プログラム数の増加や新たな連携校(明石工業高等専門学校など)が増えているのは評価できる。今後もさらなる連携校を増やすべく、各大学の意見聴取を強化し、他大学の事情にあった連携プログラムを創出し、参加者の多様性の拡大を期待したい。	①本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する 学生の割合：参加学生の80%以上 (期間中2回測定) ②参加者数 10件以上/5年	①98.6% ②プログラム数 11件/3年	プログラム数 2件/年	プログラム件数 6件/年

②学生交流委員会

事業報告	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施> WILL BE プロジェクト・地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動	2	2	加盟校ならびに行政が有する子育て支援施設や子どもの居場所と連携するボランティア活動は、学生のニーズもあり、支援体制を構築できている点は評価できる。また、外部資金を活用して交通費等、学生の経済的負担を軽減できている点も評価したい。ただし、学業との両立(学校からの移動距離・授業時間等との兼ね合い)において、一部学生の参加にとどまる傾向があるため、より多くの加盟校学生が参加しやすい事業内容についても検討いただきたい。		参加学生数のべ14名 (申込者28名・参加者11名)	参加団体5団体以上 個人参加15名以上	1団体2名参加 個人参加12名
事業報告②	<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施> WILL BE プロジェクト・ウィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト	4	2	地元企業・協賛企業との連携プロジェクトとして3年目を迎え、新たに兵庫県が共催に加わるなど、プロジェクトの社会的価値が高まり、学生の地元企業理解や成長機会に本取組が寄与してきた実績を評価したい。同時に、次年度以降の継続については、連携先との協議の上、コンソ事業としてふさわしい関わり方を検討いただきたい。	参加学生数50名以上	参加学生数のべ82名 (参加者66名)	参加学生のチーム活動/月1回以上 (活動期間中)	月1回以上、参加学生のチーム活動を開催した
事業報告③	<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施> WILL BE プロジェクト>③兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project ～2025年大阪 関西万博に向けて～兵庫県「ひょうごフィールドバビロン」との連携～	4	3	加盟校の学生たちが元気になる学生交流活動として、2025年「大阪・関西万博」と連動して、当初計画通り、2か年にわたり、単なるお祭りのな交流活動にとどまることなく、地域課題の解決も視野に入れて、兵庫の魅力を発見・発信する学生の活動そのものが、兵庫県の魅力向上に寄与した点は評価したい。今後も、加盟校の学生が地域で活躍する姿を国内外に発信機会があれば、取り組んでいただきたい。		参加学生数のべ61名 (参加者30名)		月1回以上、参加学生のチーム活動を開催した
事業報告④	<学生発信ブランディング> 加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施	2	3	コンソHP上にて「地域で輝く学生」と題して、各加盟校の特長ある地域活動を通じて、学生が地域に貢献する姿をわかりやすく伝え、コンソーシアム加盟校全体の認知度が高まる活動は重要である。次年度も引き続き、広報活動の活性化に取り組んでいただきたい。	情報公開数200取組以上	74取組/3年	各加盟校からの情報提供/年1回以上 情報公開数40取組以上/年	21取組(年内40取組掲載予定)/年
事業報告⑤	<学生発信ブランディング> 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」	3	4	阪神・淡路大震災を経験したコンソーシアムとして、震災を知らない世代の加盟校学生たちが兵庫県の防災啓発動画を作成する本取り組みは、意義深い活動であると評価できる。次年度は、SNSを活用した情報発信活動の実施、また全国コンソーシアム研究交流フォーラムにて、加盟校での各取り組みと共に、オールひょうごとして防災・減災への意識向上に向けて発信いただきたい。	参加加盟校数10校以上/年	加盟校参加数 6校	参加団体1団体以上 個人参加20名以上	個人参加11名

③教育連携委員会

事業報告	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	単位互換事業の実施	4	4	教育のICT化や共同開講など、学生への多様な学びの機会の提供について引き続き検討頂きたい。また、興味のある学生に情報が届くよう単位互換制度の認知度向上に向けて、広報について改めて検討頂きたい。	各年開放科目数10科目以上	128科目(18校)/年	送り出し校数・5校/年	11校(61名)/年 ※対面52名、オンデマンド9名
事業報告②	多様な学修機会の提供	4	4	継続的な加盟校の教育資源の共有と相互連携の取組として、加盟校の公開講座を対面実施以外にもオンライン実施も含めて広く開放し、多様な学生の交流を促進し、学修経験の強化を引き続き図って頂きたい。eラーニングシステムについても、コロナ禍以後、オンライン学修やリメディアル教育など多様なニーズが生まれている。引き続き加盟校に周知を行い、加盟校全体のICTを活用した教育資源向上に期待している。	各年プログラム数5件以上	17件(7校)/年	参加者数50名以上/年	参加者数 1684名/年

④キャリア委員会

事業報告	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プロジェクト	2	4	企業と大学をつなげ、教職員とコンソーシアムの関係を深めた点や、教職員に企業や法律家など、多角的な視点での情報提供ができたのは評価できる。加盟校を卒業した“先輩”が、県内企業に入社したきっかけを語る「先輩インタビュー」は、学生に地元就職を意識させる点で有効といえ、継続いただきたい。1～3月のキャリアイベント集客にも帰結するが、次年度以降は、就職活動中の学生に発信内容を届ける一層の取組に期待したい。	①兵庫県内企業理解が深まったことを実感する学生の割合70%以上 ②参加者数 2500名(学生数2250名以上、教職員数250名以上)以上/5年	①88.3% ②参加者数 1598名/3年 (学生1192名、教職員406名)	各年参加者数 500名以上(学生数450名以上、教職員数50名以上) ※事業報告①、②の合計数	参加者数 156名/年 (学生64名・教職員92名)
事業報告②	「尼崎市」大学生等向け職場体験事業	4	4	尼崎市内企業への理解を深めた点、参加学生の満足度が非常に高かった点、自治体との連携が深まった点は評価できる。次年度は、自治体や企業ニーズをさらに踏まえ、日本人だけでなく、留学生も対象にした尼崎市内の職場体験事業も進めていきたい。当事業で得たノウハウを他の自治体に広めたり、コンソ事業に取り入れたいするなど、兵庫県全域のコンソとしてのプレゼンスの向上に繋げることを期待する。		参加者数15名以上(事業報告①の達成目標：各年参加者数 500名以上(学生数450名以上、教職員数50名以上)を含む)		参加者数 87名/年 (学生64名・教職員23名)
事業報告③	県内企業・団体等の魅力を情報発信	3	4	「WLB認定企業・表彰企業」「兵庫型奨学金返済支援制度導入企業」等、客観的な指標を一元化して掲載することにより、企業の比較や、企業研究の手助けになる点を評価したい。「兵庫型奨学金返済支援制度」については、産業界、自治体が地元就職促進を目的に始まった取り組みであり、学生に周知させることは意義深い。	情報公開企業・団体数120社以上	153社	企業情報の追加掲載 2種類以上	追加情報掲載 2種類
事業報告④	留学生向け就職支援・キャリア教育プログラム	4	4	留学生61名が参加の「ひょうご留学生インターンシップ」や、日本人学生と外国人留学生がペア形式で参加した「国際交流機関リレーインターンシップ」により、多国籍環境下での就業体験を提供した点は評価できる。一方で、県内での留学生の就職者数が増加する中、早期離職が課題となっている。留学生が自身のアイデンティティを活かした就職・定着を目指すこと、また、外国人の職場定着に貢献できる日本人学生を育成することも視野に入れた事業展開を期待する。	①日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合70%以上 ②参加留学生数 2500名以上	①100% ②参加留学生数 2944名/3年	参加留学生数 500名以上	参加留学生数 774名/年
事業報告⑤	外国人留学生採用ワンストップ支援事業	4	4	ひょうご留学生留学生インターンシップ参加学生の継続的な支援の場として機能していること、個々の留学生の特性に合わせた丁寧な支援により、内定者が出ていること、留学生の就職に纏わる関係機関とより実質的な連携が出来ていることは、評価できる。今後も、個々の留学生への丁寧な支援、企業の潜在的ニーズに触れる丁寧なヒアリングと、多角的な視点での連携先の開拓や関係強化により、留学生の県内企業定着を促進することを期待する。	①日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合70%以上 ②参加者数 250名以上	①80% ②参加者数 214名/3年	参加者数 50名以上	参加者数 74名/年

<自己評価基準>

対到達目標：4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った
対継続性：4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき

⑤高大連携委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	大学と高等学校の意見交換会の実施「ひょうご高校大学コンソーシアム」	4	4	兵庫県下の大学と高校の連携・接続に関する課題の共有、およびその課題について意見交換が継続的に行われている点については評価できる。引き続き、兵庫県下の高大連携を深め、人材育成の取組促進・人的ネットワークの構築を図るための活動を推進してほしい。	各年参加校数20校以上	参加校数 22校/年	意見交換会等の実施/年1回以上	意見交換会を1回実施
事業報告②	加盟校の魅力を情報発信	3	4	コンソHPでの情報発信や、県下の高等学校への情報共有など高大連携に関する情報を提供している点については評価できる。今後も継続して、オンラインはもちろん説明会やパンフレットなどのオフラインも併用しながら、高校の教職員・高校生・保護者への、加盟校の情報を発信していただきたい。	各年情報提供先数 高等学校等200か所以上	情報提供先数 200か所以上/年 (兵庫県立学校長協会・県下高等学校への情報提供)	大学コンソーシアムひょうご神戸ホームページへの情報掲載 アンケート等の実施/年1回以上	コンソHPへの情報掲載1回

⑥FD・SD委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開	4	4	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開について、コンソーシアム内で情報共有の仕組みを構築し、通年を通して加盟校教職員の受講機会を提供し、教職員の資質向上に寄与できている点は評価できる。今後も継続的に加盟校のニーズを踏まえたFD・SDへの取組みを進めていただきたい。	各年セミナー5件以上	9件(10校)のFD・SDセミナーを公開/年	参加者数 100人以上/年	参加者数 758人/年
事業報告②	<FD・SD情報交換会、セミナー等の開催> 加盟校教職員を対象とした大学教育等に関する講演会等の開催	3	4	加盟校に共通する大学教育が直面する喫緊の課題について、加盟校のニーズを踏まえたセミナーに取り組んでいることは評価できる。FD・SD共通化への施策の検討を含めて、大学が単独で行うよりもコンソーシアムで実施する意義がある活動を推進いただきたい。	各年参加者数50名以上	参加者数 148名/年	開催数 3回以上/年	開催数 1回/年
事業報告③	<FD・SD情報交換会、セミナー等の開催> 加盟校教職員を対象とした内部質保証システム等に関するFD・SDセミナー等の開催	4	4	近年、重視されている認証評価・IRなどについて、体制作りから実質化まで苦慮されている加盟校の現状を踏まえたセミナーを継続的に実施できた点は評価できる。今後も加盟校のニーズを柔軟にとらえ、時宜にあった取組を検討いただきたい。	各年参加者数50名以上	参加者数 149名/年		開催数 2回(実施予定含む)/年

⑦企画運営委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	・リカレント教育の普及促進に向けた取組 ・加盟校のリカレント教育に関する情報発信	3	4	兵庫県からも県内大学におけるリカレント教育の取組促進、機運の醸成がコンソに対して期待される中で、本取組を継続できていることは評価できる。引き続き、先進事例や課題を共有し、加盟校が連携してリカレント教育の普及に寄与いただきたい。	①各年参加者数50名以上 ②各年10校以上	①2025年3月5日「リカレントフォーラム開催予定。参加者数は現時点未定 ②28校/年	大学・企業関係者による講演・意見交換会(年1回以上)	①2024年3月5日「リカレントフォーラム」開催予定(1回)
事業報告②	・大学間・地方自治体・企業・地域団体との連携体制の構築 ・緊急時の加盟校間の協力・情報提供体制の構築	4	4	企画運営委員会及び、ひょうご産官学連携協議会等での懇談については、次年度以降も定期的に実施し、産官学の連携体制の強化について、意見交換の場を設けていただきたい。次年度開催の全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムに向けては、加盟校自身がコンソ活動への理解を深め、所属意識を高めながら、コンソ活動ならびに加盟校活動を他エリアのコンソ・大学に周知できる場をつくり出すことに期待している。また緊急時リスクマネジメント体制の構築については、定期的な見直し・改善を行い、より実践的な関係性構築に向け検討を重ねていただきたい。	①大学間連携の特徴を生かした地方自治体・企業・地域団体との連携の拡充 ②緊急時の情報共有・ネットワーク体制の構築	①企画運営委員会、産官学連携協議会、産業界との協議・意見交換及び、企業課題解決プログラムの実施等により地方自治体・企業・地域団体との更なる連携を拡充した ②「リスクに関する情報連絡会」を開催、緊急時の情報共有・ネットワーク体制の構築した	①大学・企業関係者による講演・意見交換会(年1回以上) ②大学・企業関係者による講演・意見交換会(年1回以上)	①企画運営委員会(原則月1回開催): 8回実施済(年度内計12回実施予定) 産官学連携協議会:1回実施済(年度内計2回実施予定) 産業界との意見交換会:1回実施済(年度内計2回実施予定) ②リスクに関する情報交換会:1回実施済(11月末時点)
事業報告③	加盟校が活性化する事業運営体制の整備と推進	4	4	事務局運営の効率化・プロセスの可視化・情報管理や共有に関しては、継続的な評価と改善を行い、最適な効率化を図る必要があるため、継続して取り組んでいただきたい。アンケート等で導き出された課題(コンソの認知度や関心)については適宜、企画運営委員会や各事業委員会等で協議しながら、各取組みがよりよいものになるよう活かしていただきたい。また各ワーキングでの課題(全国コンソ、会費、リスクマネジメント・リカレント)について、導き出された解決策を具体的に運用することで、次年度以降のさらなる事業活性化・安定的な運営体制の構築を図っていただきたい。	加盟校の共通課題に協働して取り組む事業運営体制の構築	コンソHPを活用し加盟校へ情報共有を行った。新たな取り組みとして「加盟校で働く教職員の方へ」のウェブページを新設し、各大学の教職員募集情報の一元化を実施した。また企画運営委員会にてWGを設置、課題解決に向け議論を深めた。	企画運営委員会等における懇談の実施(年10回以上)	企画運営委員会(原則月1回開催): 8回実施済(年度内計12回実施予定) (11月末時点)

<自己評価基準>

対到達目標: 4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った

対継続性: 4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき

課題①取組1-1	「兵庫県」大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プロジェクト
達成目標	①兵庫県内企業理解が深まったことを実感する学生の割合80%以上 ②参加者数 2500名（学生数2250名以上、教職員数250名以上）以上/5年
課題を解決する取組概要	大学キャリアセンターと連携した県内大学生の地元就職促進プロジェクト <若者の地元密着のための就職支援事業> 兵庫県の年齢別転出超過で最も多いのは、大学卒業・就職を契機とした若者であり、県内大学卒業者の『県内企業就職率』は、3割弱に過ぎず、7割以上が県外に本社のある企業に就職している。その要因の一つとして、大学生の県内企業への理解不足があると考えられる。県内大学卒業者の地元への就職について、大学側と企業側が相互理解を深める機会を提供する。地元企業と加盟校が連携することで、若者のキャリア形成の支援を充実させ、地域の活性化を実現する。
活動指標	各年参加者数 450名以上（学生数400名以上、教職員数50名以上） ※課題①取組1-1、課題①取組1-2の合計数

計画（4月記載）	自己評価（12月記載）	報告（3月記載）
<p>【兵庫県総務部教育課 受託事業 「大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プロジェクト」】</p> <p>I、大学キャリアセンター教職員に対する県内企業の理解促進に向けた取組</p> <p>1) 県内企業経営者等によるキャリアセンター向けの企業説明及び意見交換会（計3回） 大学が目指す人材育成像、企業が求める人材像について、キャリアセンターと県内企業が意見交換を行う。</p> <p>①2025年9月20日予定（留学生インターン発表会） ②2025年10月予定（協業：神戸商工会議所） ③2026年1月頃予定</p> <p>II、大学生に対する県内企業の理解促進に向けた取組</p> <p>1) 経営者による職業観形成プログラム（計1回） 県内中小企業の経営者が、地域に根差した先進的・実践的な自社の取組や課題解決事例等、直接学生に講話し、学生の地元意識の高揚を図る。 ・2026年1月予定：合同模擬グループディスカッションにおけるネットワーキング</p> <p>2) 若手社員による学生啓発プログラム（計1回） ・2026年1月予定：合同模擬グループディスカッション</p> <p>※その他、加盟校、地元企業からの間で課題等を共有し、解決に向けたプログラムを実施予定。</p>		
達成目標に対する実績		
活動指標に対する実績		
自己評価基準：対到達目標 ※		—
自己評価基準：対継続性 ※		—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
3,938,050円				
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）				
（企画運営委員会で原案作成、理事会承認を経て事務局にて記載、各事業委員会にフィードバック）				

※	4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った	※	4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき
自己評価基準：対到達目標		自己評価基準：対継続性	

【2025年度 キャリア委員会 事業計画（①取組1-2）】(案)

課題①取組1-2	「尼崎市」大学生等向けオープンカンパニー事業(予定)
達成目標	①兵庫県内企業理解が深まったことを実感する学生の割合80%以上 ②参加者数 2500名（学生数2250名以上、教職員数250名以上）以上/5年
課題を解決する取組概要	大学キャリアセンターと連携した県内大学生の地元就職促進プロジェクト <尼崎市内企業を対象としたインターンシップ等推進事業> 兵庫県内大学卒業者の『県内企業就職率』は、3割弱に過ぎず、要因の一つとして、大学生の県内企業への理解不足が考えられている。大学生等を対象に、尼崎市内事業者の魅力を発信し、さらに体感できる機会を提供することで、若者の社会人基礎力を育成するとともに、尼崎市内事業者の事業活動の活性化及び尼崎市内事業者への就職を促進する。
活動指標	参加者数15名以上（課題①の達成目標：各年参加者数 450名以上（学生数400名以上、教職員数50名以上）を含む）

計画（4月記載）	自己評価（12月記載）	報告（3月記載）
<p>【尼崎市経済環境局経済部しごと支援課受託事業「大学生等向けオープンカンパニー」】</p> <p>尼崎市内の企業（中小・大手の事業者等）を対象にした大学生等向けオープンカンパニー。 1 社あたり半日～1日、業務内容や業界説明、工場見学等も取り入れた職場体験を行う。</p> <p>■事業実施時期（予定） 令和7年8～9月（大学夏季休暇期間）</p> <p>■対象 2027年卒業予定の大学生・短大生・高専生（上記を主体とするが全学年参加可能）</p> <p>■目標人数 15名、参加事業者5社以上</p> <p>■事業委託内容 1)参加企業におけるオープンカンパニーのコーディネート 2)参加企業決定後の調整 3)参加学生募集・選考および期間中の学生管理 4)参加企業、学生双方へのアンケート調査実施 5)報告書の作成および「アマボータル」掲載記事作成による参加企業の魅力発信</p> <p>■スケジュール（予定） ・5/12（月）：HP公開（学生募集開始） ・6/27（金）：学生募集締切 ・7/1（火）～4（金）：学生選考 ・8～9月：職場体験</p>		
達成目標に対する実績		
活動指標に対する実績		
自己評価基準：対到達目標 ※		—
自己評価基準：対継続性 ※		—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
1,314,000円(予定)				
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）				
（企画運営委員会で原案作成、理事会承認を経て事務局にて記載、各事業委員会にフィードバック）				

※ 自己評価基準：対到達目標	4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った	※ 自己評価基準：対継続性	4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき
-------------------	--	------------------	--

【2025年度 キャリア委員会 事業計画（①取組2）】（案）

課題①取組2	県内企業・団体等の魅力を情報発信
達成目標	情報公開企業・団体数120社以上
課題を解決する取組概要	県内企業・団体等の魅力を情報発信 地域の産業界の協力を得て県内企業や団体等の情報を収集し、大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに公開するとともに、兵庫県内の職業紹介サイト等との連携も図る。加えて、県内企業・団体等が求める人材について、情報交換会等を通じ、企業と大学間で人材ニーズと人材育成に関する情報の共有と相互理解を深める。
活動指標	企業情報の追加掲載 2種類以上

計画（4月記載）	自己評価（12月記載）	報告（3月記載）
<p>「地元で働こう！兵庫県内企業情報サイト」に随時情報公開。 《掲載内容》 業種、資本金、売上高、従業員数、本社所在地、事業内容、経営方針、特色・強み、採用情報（外国人留学生採用予定を含む）（企業HPへリンク）</p> <p>※兵庫県内協力企業153社掲載中（2025年1月時点） ※掲載企業情報の内容を充実するため、企業情報欄を追加する（12月頃に確定）</p> <p>【追加情報欄例】 ・くるみんマーク（子育てサポート企業） ・ひょうごオンリーワン企業 ・ユースエール認定企業 ・その他</p> <p>※昨年度同様、キャリア委員校と連携して2025年度掲載準備を行い、委員会で企業情報追加内容を確定（8月頃）・推薦企業への確認（10月末頃）を経て、本年度版「地元で働こう！兵庫県内企業情報サイト」（12月）に反映する。</p>		
達成目標に対する実績		
活動指標に対する実績		
自己評価基準：対到達目標 ※		—
自己評価基準：対継続性 ※		—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
0円				
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）				
（企画運営委員会で原案作成、理事会承認を経て事務局にて記載、各事業委員会にフィードバック）				

※
自己評価基準：対到達目標
4：当初計画を上回って達成
3：当初計画を達成
2：当初計画をやや下回った
1：当初計画を下回った

※
自己評価基準：対継続性

4：本プログラムは継続すべき
3：本プログラムは継続しても良い
2：本プログラムの継続には改善が必要
1：本プログラムは中止すべき

【2025年度 キャリア委員会 事業計画（④取組1-1①）】（案）

課題④取組1-1	留学生向け就職支援・キャリア教育プログラム
達成目標	①日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合70%以上 ②参加留学生数 2500名以上
課題を解決する取組概要	個別大学では実施が困難な、留学生に特化したインターンシップを大学と企業と協働で実施する。参加留学生のニーズを元に、受入先を決定する。留学生と県内企業等の相互理解を促進し、留学生の県内企業等への就職意欲の向上、及び県内企業等の留学生の採用意欲の向上を図る。(尼崎市受託事業と協同実施)さらに、留学生の就職支援として、外国人向け合同企業説明会の共催のほか、今後、外国人の職場定着が進む日本企業において活躍する人材を育成するため、日本人学生と留学生のペアでのインターンシップを実施する。これらの取り組みを通じて、留学生が日本で就職するための教育から、就職活動、定着までを包括的に支援する。
活動指標	参加留学生数 500名以上

計画（4月記載）	自己評価（12月記載）	報告（3月記載）
<p>I. ひょうご留学生インターンシップ 【プログラムスケジュール】 4月中下旬 インターンシップ説明会（オンライン） ※説明会以降5月下旬までオンデマンド配信 ※各大学の留学生ガイダンス時に説明 6月3日（火） エントリー学生ガイダンス 6月7日（土） エントリー学生と企業の交流会（1次選考前提） 7月下旬～9月15日（金） 企業、団体での留学生インターンシップ実習 9月20日（土） 報告会・修了交流会</p> <p>II. 外国人向け合同企業説明会 留学生と県内企業とのマッチングを行う企業説明会や就職セミナー等を共催する（2025年6月予定） 主催：神戸市、兵庫県、ひょうごBC、神戸BC</p> <p>III. 『国際協力機関リレーインターンシップ』 国際協力や多文化共生に興味がある学生を対象に、各機関のリレーインターンシップを日本人学生と留学生がペアで実施。業界研究、就職促進と多国籍の状況で、協働して成果を出す経験を提供。 【受入予定機関】 JICA関西、兵庫県国際交流協会、JETRO神戸、コンソ 【受入時期】 8月～9月、各機関1～2日で合計5日以上 【実施背景】当コンソ、JICA関西、兵庫県国際交流協会との3者協定に伴う連携事業の1つとして</p>		
達成目標に対する実績		
活動指標に対する実績		
自己評価基準：対到達目標 ※		—
自己評価基準：対継続性 ※		—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
1,600,000円				
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）				
（企画運営委員会で原案作成、理事会承認を経て事務局にて記載、各事業委員会にフィードバック）				

※
自己評価基準：対到達目標
4：当初計画を上回って達成
3：当初計画を達成
2：当初計画をやや下回った
1：当初計画を下回った

※
自己評価基準：対継続性

4：本プログラムは継続すべき
3：本プログラムは継続しても良い
2：本プログラムの継続には改善が必要
1：本プログラムは中止すべき

【2025年度 キャリア委員会 事業計画（④取組1-1②）】（案）

課題④取組1-1②	「尼崎市」留学生向けインターンシップ事業(予定)
達成目標	①日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合70%以上 ②参加留学生数 2500名以上
課題を解決する取組概要	個別大学では実施が困難な、留学生に特化したインターンシップを大学と企業と協働で実施する。参加留学生のニーズを元に、受入先を決定する。留学生と県内企業等の相互理解を促進し、留学生の県内企業等への就職意欲の向上、及び県内企業等の留学生の採用意欲の向上を図る。(尼崎市受託事業と協同予定)さらに、留学生の就職支援として、外国人向け合同企業説明会の共催のほか、今後、外国人の職場定着が進む日本企業において活躍する人材を育成するため、日本人学生と留学生のペアでのインターンシップを実施する。これらの取り組みを通じて、留学生が日本で就職するための教育から、就職活動、定着までを包括的に支援する。
活動指標	参加留学生数 500名以上

計画（4月記載）	自己評価（12月記載）	報告（3月記載）
<p>尼崎市経済環境局経済部しごと支援課受託事業 「外国人留学生向けインターンシップ」（予定） ひょうご留学生インターンシップの枠組に 尼崎市の下記委託内容を当てはめて実施</p> <p>【受託予定内容】 1)インターンシップ(5日以上)のコーディネート 2)参加企業との調整（※企業選定は尼崎市） 3)参加学生の募集・選考および期間中の学生管理 4)参加企業、学生双方へのアンケート調査実施 5)報告書の作成および「アマポータル」掲載記事作成による参加企業の魅力発信 ※5)が、尼崎市独自の委託内容</p> <p>【実施スケジュール】 (ひょうご留学生インターンシップ) 4月中下旬 インターンシップ説明会（オンライン） ※説明会以降5月下旬までオンデマンド配信 ※各大学の留学生ガイダンス時に説明 6月3日（火） エントリー学生ガイダンス 6月7日（土） エントリー学生と企業の交流会(1次選考前提) 7月下旬～9月15日（金） 企業、団体での留学生インターンシップ実習 9月20日（土） 報告会・修了交流会</p>		
達成目標に対する実績		
活動指標に対する実績		
自己評価基準：対到達目標 ※		—
自己評価基準：対継続性 ※		—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
1,386,000円（予定）				
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）				
（企画運営委員会で原案作成、理事会承認を経て事務局にて記載、各事業委員会にフィードバック）				

※
自己評価基準：対到達目標
4：当初計画を上回って達成
3：当初計画を達成
2：当初計画をやや下回った
1：当初計画を下回った

※
自己評価基準：対継続性

4：本プログラムは継続すべき
3：本プログラムは継続しても良い
2：本プログラムの継続には改善が必要
1：本プログラムは中止すべき

【2025年度 キャリア委員会 事業計画（④取組1-2）】（案）

課題④取組1-2	「兵庫県」外国人留学生採用ワンストップ支援事業
達成目標	①日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合70%以上 ②参加者数 250名以上
課題を解決する取組概要	外国人留学生採用ワンストップ支援事業 高度な技術力や知識を有する外国人留学生の円滑な県内就職を促進するため、留学生と企業それぞれを対象として、留学生の採用から採用後の職場定着までを支援する事業を行う
活動指標	参加者数 50名以上

計画（4月記載）	自己評価（12月記載）	報告（3月記載）
<p>【兵庫県産業労働部国際局国際課経済交流班受託事業「外国人留学生採用ワンストップ支援事業」】</p> <p>●事業内容 (1)外国人留学生採用ワンストップ相談窓口の設置 ①窓口相談 日本での就職を希望する留学生及び留学生の採用を検討している企業の双方からの相談を[対面・オンライン・メール・電話等]により実施し、それぞれの実情に即したアドバイスを行う。 ア:窓口相談の対象者 a. 留学生（既卒の就職者を含む。） b. 留学生の採用を検討している企業及び留学生を採用した企業 イ:相談内容 a. 留学生の国内就職に関する相談及び県内企業による採用・人材活用に関する相談対応 b. 留学生向け合同企業説明会やインターンシップ等の紹介 ②専門家派遣等 留学生の採用及び人材活用に係る高度な相談に専門家と連携して対応するとともに、必要に応じて専門家が企業を訪問し、指導・助言を行うことで企業側の受入体制を整備する。 ア:対象 留学生採用検討の企業、留学生採用中の企業 イ:内容 a. 留学生の採用・人材活用に係る専門的な内容に対する面談または電話での相談対応 b. 留学生の受入体制整備等に向けた相談企業へ専門家派遣 (2)外国人留学生採用促進セミナーの開催 留学生の採用や入社後の人材活用に向けた企業向け啓発セミナーを実施することにより、県内企業における人材確保を促進する。また、セミナーの内容をアーカイブ配信し、県内企業への効果的な啓発を実施する。 ①対象 留学生の採用を検討している県内企業 ②回数 年1回 ③内容 留学生に対する基本的な理解促進、先進事例及び支援事業紹介 ④アーカイブ配信 セミナーの内容を動画撮影し、動画を配信する。 (3)情報収集 留学生の就職に関する各種情報の収集に努めるとともに、県内企業による相談窓口活用を促す。</p> <p>●業務体制 (1)相談窓口には相談員を1名配置する。 (2)相談員は外国人留学生のキャリアアップ支援等に従事した経験があり、企業・外国人留学生の双方への相談対応が可能な人材とする。 (3)相談窓口の開所時間は、 月・水・金曜日の9:00～16:00とする。 （年末年始、土日祝日を除く）</p>		
達成目標に対する実績		
活動指標に対する実績		
自己評価基準：対到達目標 ※		—
自己評価基準：対継続性 ※		—

事業収支				
収入	支出	収支	支出	収支
6,291,000円				
理事会からの改善提案（次年度事業計画に反映）				
（企画運営委員会で原案作成、理事会承認を経て事務局にて記載、各事業委員会にフィードバック）				

※
自己評価基準：対到達目標

4：当初計画を上回って達成
 3：当初計画を達成
 2：当初計画をやや下回った
 1：当初計画を下回った

※
自己評価基準：対継続性

4：本プログラムは継続すべき
 3：本プログラムは継続しても良い
 2：本プログラムの継続には改善が必要
 1：本プログラムは中止すべき

大学コンソーシアムひょうご神戸
2024年度 賛助会員様と加盟校の懇親会 実施報告書

1. 主催：一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
2. 趣旨：賛助会員に日頃の協力への謝意を示すとともに、兵庫県の活性化のために、コンソーシアムが大学と企業、自治体を繋ぐという新たな仕組みづくりに向け、コンソーシアムの活動理解とより一層協力を促す意見交換の場とする。
3. 日時：2024年12月9日（月）18:00～19:30
4. 場所：神戸ポートピアホテル 本館地下1階「宴会場 偕楽」（GBAC STAR 認証済施設）
5. 参加者：合計 148名
(内訳)・賛助会員企業 44社74名
・大学 20校40名(理事・監事10名、その他学長・副学長5名、教職員25名)
・自治体 兵庫県3名、9市町12名
・協定締結先団体 3団体5名
・事務局職員 14名
6. 総合司会：神戸学院大学 学生放送局 岩田 望さん、大田 睦さん
7. 次第および内容：

1) 開会挨拶：中村 恵理事長（神戸学院大学 学長）

社会環境の変化に伴い大学の現場も進化し、産官学連携は学内でより重要視されていると認識している。よって、学生が将来社会で活躍するための基盤を築くことが重要であるという観点から、大学は産業界や自治体等に、求められる資質について意見を聞く必要がある。本懇親会が、各大学と産業界が今後の社会の中で必要となるものを掘り下げる機会となることを願っているということを、日頃の支援に対する謝意と共に述べられた。



2) 活動報告：

大学コンソーシアムひょうご神戸の理念、組織体制、事業内容、活動概要の説明があった。

・企画運営事業：「企業課題解決プログラム」

神戸親和大学 文学部国際文化学科 2年生 森本 結海さん、花岡 菜摘さん

神戸親和大学 文学部心理学科 2年生 平石 あかねさん、三木 捺深さん

神戸親和大学 文学部国際文化学科 教授 河野 泉氏

(株)マルヤナギ小倉屋 本社営業部 マネージャー 田中 未奈子氏

・キャリア事業：「ひょうご留学生インターンシップ」

関西学院大学 国際学部国際学科 3年生 尹 睿志（ユン イェジ）さん



5名の学生から、活動内容の説明と、活動を通して得た学びや気づき、そして自身の成長と次のステップでどう活かしていくかについて発表があった。神戸親和大学河野教授からは「店舗を訪問することで具体的な商品イメージを得たうえで、意欲的に課題に取り組むことができた。学生が実際の商品開発プロセスを学ぶことができる貴重な機会を得た」とのコメントが、また(株)マルヤナギ小倉屋田中マネージャーからは、「企業としては新たな視点や気づきだけでなく、新たなファンの創出等、大きな収穫が得られた。業務への負担を懸念していたが、コンソが仲介となり、企業側の負担を軽減するようコーディネートしてくれたことが大きい。今後、ビジネスを加速させたい企業に是非チャレンジして欲しい」とのコメントをいただいた。学生の、フレッシュかつ優れたプレゼンテーションと、それを支える大学と企業のお2人からの言葉に、参加者から温かい眼差しが注がれた。

3) 乾杯：森 康俊副理事長（関西学院大学 学長）

学生の活動報告にあったとおり、各加盟校、学生、賛助会員の皆様と多くの出会いにあふれた2024年だったと感じる。2025年8月末には、全国の大学コンソーシアムを迎えることになっており、加盟校で準備を進めていく。賛助会員の皆様にもご協力をお願いしたい、との挨拶の後、乾杯の音頭を取られた。



4) ご懇談

飲み物と軽食をとりながら、リラックスした雰囲気の中にも積極的な名刺交換が行われ、交流を深める姿があらこちらで見られ、終始熱気に満ち溢れていた。

◆加盟校の声

- ・特定の専門分野に特化した大学であるため、就職活動等において自学の学生が他大学学生と良い関係を築けるか不安を感じているが、異なる背景を持つ学生と交流を深めることでの相互に学び合える機会は有用であり、今後もコンソの活動に期待している。



◆賛助会員の声

- ・学生発表を通して、「企業課題解決プログラム」が学生に企業への興味喚起や、新たなファン開拓の一助となっていることが理解できた。
- ・合同模擬グループディスカッション&面接大作戦を毎年非常に楽しみにしている。直接学生と出会うことのできるイベントは企業にとって大変ありがたく、感謝している。



◆自治体

- ・「企業課題解決プログラム」の学生発表を聞いて、大学との繋がり方に関して新たな視点が持てた。大学と繋がる必要性とともにコンソを通じて大学と接点を持つことを知る機会となった。
- ・自治体においても価値のある機会だと感じたので、今後も参加したい。
- ・自治体として、どのような産官学連携ができるのかを知りたいと思い参加した。後日詳しく話を聞きたい。

5) 閉会挨拶：中井 伊都子副理事長（甲南大学 学長）

今回、初めての試みとして、県下の自治体の皆様にもお越しいただき感謝申し上げます。先程、森副理事長からもお話があったが、阪神・淡路大震災30年となる2025年、全国44のコンソーシアムが集う会を兵庫の地で開催する。賛助会員の皆様にも案内させていただくので、兵庫らしいコンソーシアムのあり方をぜひ見に来ていただきたい。また、コンソとして様々な活動を展開しているので、引き続きご支援をお願いしたいとの挨拶とともに本日出席の謝意を述べられ、散会した。



8. 賛助会員、自治体、協定締結先団体からのアンケート結果：39社9自治体2団体74名（回収率：約80%）

- [活動理解・学生発表・参加者間交流]：全て満足度4.5点以上（5点満点中）
- [企業課題解決プログラムへの興味]：はい57票、いいえ2票
- [企業課題解決プログラムへの応募意向]：はい11票、いいえ8票、まだ決めていない35票
- [懇親会の飲食]：会費制・充実した飲食4票、会費なし・軽食42票、飲食不要22票

9. 事務局員所感

参加者が熱心に学生発表に耳を傾け、懇談時には精力的に交流されている様子から、本懇親会の趣旨に沿った有意義な会であったと感じた。また、新たな試みとして、自治体にも参加を呼びかけ、9市町から出席いただいたことは2025年の全国コンソ開催に向けての足掛かりとなるとともに、さらなる可能性を繋ぐ機会となったものとする。